

## 認知症作業療法 活動計画（概要）

岐阜県作業療法士会地域リハ推進部の活動は、主に地域包括ケアシステムの構築と進展および共生社会の実現に寄与する作業療法士の人材育成、行政や地域包括支援センターならびに対象者やその家族等との協働や支援を通じ、広く社会に貢献することを目的に活動する。新オレンジプラン等を基盤とする認知症作業療法支援についても、主眼点を「地域」と「共生」とし、対象者となる認知症の人や家族にとって目的や価値を持つ生活行為の向上ならびに社会参加を直接的または間接的に支援し、住み慣れた場所で安心かつノーマルに暮らすことができることを目指す。



## 2020年の解決すべき課題

- ①地域包括ケア時代の認知症作業療法における共通認識
- ②認知症の人と家族に対する認知症作業療法の役割の共通認識
- ③With コロナ時代の認知症支援の在り方の検討
- ④予防支援の普及
- ⑤認知フレイル予防に必要な支援

## 2020年の主な活動

以下、2020年の解決すべき課題別に表記

- ①②認知症アップデート研修会（オンライン）
- ③⑤県土会内の認知症チームによる検討会議（オンライン）、行政・通いの場での各種支援
- ④⑤各務原市フレイル予防推進委員会への提案、フレイルサポーター養成研修会での講義

## COVID-19（新型コロナウイルス）の対応など

2020年度認知症アップデート研修会をはじめ、会員向けの各研修会についてはオンライン形式にて開催する。WEB会議システムについては当士会にて導入し、いつでも使用できる体制を整備している。

なお、2020年度は、認知症カフェ、認知症初期集中支援等をはじめとする対象者への直接的な認知症作業療法の実践は、対象者への感染予防策を含め、行政や開催団体等の協議し慎重に判断する。

## 司書等研修会への講師派遣（報告）

岐阜県図書館より令和2年度司書等研修会講師派遣の依頼を受け、1名派遣し、令和2年7月28日に「認知症にやさしい図書館であるために（高齢者対応）」と題し、25名に講義を行った。参加者からは「認知症の人への偏見に気づいた」「認知症の人の生活の工夫を知ることができた」「図書館としてこれからの活動に活かしたい」などの感想があった。